

「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」は、厚生労働省が定めたむし歯や歯周病の重症化を予防するための制度です。

歯科疾患の管理が必要な患者さま1人1人に「安心・安全な治療を提供できること、お口の定期検診でむし歯や歯周病などの予防を図り、患者さまの健康に貢献できる歯科医院である」と国に認められた歯科医院が認定されます。

当院は認定から4年が経過しました。

今後も認定の趣旨を遵守し、地域の皆さまの健康維持に貢献できるよう、より積極的に取り組んでまいります。

認定を受けるためには以下のような厳しい基準を通過しなくてはなりません。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の主な施設基準

- 1 歯科診療所であること
- 2 複数の歯科医師、又は1人以上の歯科衛生士が常勤していること
- 3 医療安全対策、高齢者の口腔機能管理に係る研修を受けた歯科医師が常勤していること
- 4 歯科訪問診療（往診）、かぶせ物の管理、歯周病治療を終了した方への定期アフターケアなど、定期的にお口の状態の説明をしていること
- 5 医療安全対策にあたり必要な体制・緊急時の対応を行うにあたり必要な体制が整備されていること
- 6 地域の医療、介護と連携体制が取れていること
- 7 医療機器の滅菌処理を徹底していること
- 8 禁煙であること

など、この他にも厳しい基準が設けられています。



防護服を着て診療しています

医院カレンダー

4月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	★23	24
25	26	27	28	29	30	

5月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	
23	24	25	26	27	★28	29
30	31					

6月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	★25	26
27	28	29	30			

7月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	★30	31

 休診日
 外科治療日
 矯正診療日
 ★ 午後のみ診療



再スタート

新しい年度を迎えました。オリンピックの開催についてはまだ予断を許さないところではありますが、一歩ずつ世の中の動きが再開することを願っています。

さて、当院は「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」として4年目を迎えることができました。予防歯科を標榜する当院も改めてスタート地点に立ち返り、小さいお子さまからお年寄りまで安心して通院できる環境を整えてお待ちしております。春を機に、新型コロナウイルスで中断している体のメンテナンスを再スタートしませんか。



contents

- タバコでむし歯が増える? P.2
- 唾液検査をしてみませんか P.2
- 長いおつき合いをするとわかってくること P.3
- 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」認定から4年 P.4

INFORMATION OF GOJO DENTAL CLINIC
カバッこ新聞

2021年春号 2021年3月発行 通巻40号



横浜市金沢区釜利谷東6-21-1-101

TEL:045-791-0118

ホームページ：
<https://www.gojodental.com>



タバコでむし歯が増える?

TOPICS



タバコはかつていい大人のアイテムだったのは一昔前。今では喫煙所を探すことも難しくなっています。また、世にいる愛煙家が家の中で喫煙することで、さらに受動喫煙の問題も起きています。

そこで今回は、喫煙とむし歯の関係について書かせていただきたいと思います。

● 受動喫煙で乳歯のむし歯の発生率が2倍に

京都大学が約7万人を対象に3歳になるまでにむし歯になる割合を調べた結果、家族に喫煙者がいる子どもは全体の55.3%おり、これらは家族に喫煙者がいない子どもに比べてむし歯になる割合が1.46倍になっていました。特に、面前で吸われる環境にあった子どもでは、2.14倍であったとのこと。受動喫煙により、だ液の成分が変化し、むし歯ができやすくなる可能性が報告されています。(2015年の調査)

● 受動喫煙の曝露が10年以上の大学生(永久歯)は1.5倍むし歯に

岡山大学が、20歳未満の新入生1,905人を対象に調査した結果、「むし歯」「むし歯で失った歯」「むし歯治療痕がある歯」のいずれかが1本以上ある「むし歯群」は884人。一方、全くむし歯がなかったのは1,021人でした。

研究グループは双方の歯の健康習慣などを比較し、「1日の歯磨き回数」「歯の矯正をした」「10年以上家庭でたばこの煙にさらされている」の3項目に統計学的有意差(統計的に意味のある違い)が認められました。さらに受動喫煙に注目して解析し、10年以上受動喫煙を受けていた学生(438人)は、受けていない学生(1,112人)より1.5倍むし歯になり易いことがわかりました。(2020年の調査)



外で吸っても、呼気の中にはしばらくの間タバコの成分が残ります。また、空気清浄機ではタバコの有害物質の除去はできないとも言われています。乳歯も永久歯も大切な体の一部です。お子さまの未来のためにも100%禁煙の環境が望まれます。

唾液検査をしてみませんか

TOPICS

五條歯科医院の歯科衛生士長谷川です。このたび、当院に新しいだ液検査が導入されました。例えば歯周病について言えば、「もしかして自分は歯周病かも?」と、気がついている人は、わずか3割ほどだと言われています。

今のご自分のだ液の状況をご存知の方は少ないと思いますが、実はだ液にはあなたを歯周病やむし歯などの病気から守るための情報がたくさん詰まっています。私たちがこれらの情報を精密に分析することにより、患者様の歯周病やむし歯に対する目に見えないリスクを知ることができます。

だ液検査はだ液を採取するだけなので簡単で痛みもなく、しかもその日のうちに結果がわかります。私たちはだ液検査で得られた情報を利用し、個々の患者様に“より綿密に合わせたオーラルケアをご提案”させていただくと共に、“生活習慣等のさらなるアドバイス”を行うことができますようになります。

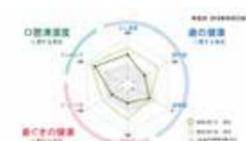
だ液検査は1回1,000円(税別)で行えます。ぜひおすすめします!



① 口を10秒ゆすぎます



② 専用器で検査します



③ 結果をご説明します

長いおつき合いをするとわかってくること



※この記事は認知症専門医 長谷川 嘉哉先生のホームページを参考にして作成しました。



認知症の進行予防のため、口腔ケアの重要性が唱えられて久しいところです。従来は家族の方が異変に気がついてお医者さんを受診し、認知症の診断が下ることが多かったかと思えます。しかしながら、長いおつき合いをしながら口腔ケアを実践している歯科医および歯科衛生士の立場から言うと、もっと早い段階で認知症の徴候が見えてきています。

1. 予約をよく忘れるようになった

通常は誰でも一度や二度忘れることはあります。しかし、今まで予約を忘れることがほとんどなかった方が、ひんぱんに無断キャンセルするようになったと感じた時、私たちは「何かあるのではないか」と感じます。



2. 待ち時間で怒るようになった

待たされることは誰も嫌なことです。ただ、多くの方が痛みや困りごとでいらしている中、多少の待ち時間が生じてもお互いさまの精神を持っているので理性が効きます。早期の認知症の場合、理性が効かなくなることがあります。



3. 歯の汚れがひどくなった

今まで自身でケアができていた方が急にできなくなった。おしゃれだったのが急に外見を気にされなくなった。女性の場合、今までしていたお化粧を、急にしなくなるのも要注意です。



4. 痛みに敏感になった

あまりにも過敏な場合は、早期認知症の兆候である可能性があります。血圧を測るときに、測る人の手が冷たかっただけでも大騒ぎになることがあります。



5. 不定愁訴が多い(訴えが一定しない)

認知症では、不安を過剰に訴える、訴えが一定しないなどの兆候も出てきます。そのような方は、何軒も歯科医院を渡り歩き、いくつもの入れ歯を持っているなどの傾向があります。



歯科医療では、長いおつき合いだからこそ見逃さない観察ポイントがいくつもあります。従来、医科は医科、歯科は歯科でしたが、今後は歯科から医科に発信し連絡をすることも多くなるかと思えます。私たちは医科歯科連携で患者様の健康を守る必要があると、常に考えています。